

中山間地域における公共BBの有効利用を図るための 上空利用に関する調査検討会報告書 概要

今回の検討の結果、これまで陸上・海上でしか利用できなかった公共BBが、一定の条件のもと、上空でも可能と結論を得ました。

今後、中山間地域等見通しがきかない遠方の災害・復旧情報を容易に伝達することが可能になるよう制度整備に向けて取組んでいきます。

現状の公共BBの伝送イメージ※



公共BBの上空利用による伝送イメージ



利用範囲の拡大可能に

※ 総務省情報通信審議会情報通信技術分科会「陸上無線通信委員会「公共ブロードバンド移動通信システムの高度化に関する技術的條件」報告書概要、平成29年5月19日 より抜粋(https://www.soumu.go.jp/main_content/000485803.pdf)

○今回の検討のポイント

- ✓ 山間等に隔てられて通信が困難だが、上空を介せば、遠方まで通信可能
 - ✓ 上空から俯瞰した災害等の情報が容易に入手可能
- ↓
- ✓ 一方で、上空利用をすると他の地域で利用する公共BBに干渉を与える可能性が増大

○実現に向けたポイント

- 他への影響を低減するため、上空では空中線電力は1W以下(通常移動局は5W)
- 上空で利用する場合、特に災害現場等では災害対策本部等で運用調整により干渉なく利用が可能